

碩心

題字は松井岳洋筆

No.369

平成17年1月

発行

(社)日本詩吟学院岳風会 認可
神奈川 碩心会

発行者 加藤岳洵
編集者 磯村岳朋

神奈川県葉山町堀内206
Tel/Fax.046-875-3723



年頭のご挨拶

会長 加藤 岳洵

会員の皆様には、平成17年の新しい年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

一昨年4月より各教場を訪問し、皆様と親しく交流の場をもち意見を交換させて頂き、昨年12月に21の教場訪問を終えることが出来ました。この間貴重なご意見やご提案を頂き実行可能な事柄は運営に反映することが出来ました。これからも皆様からのご叱正をお願いする次第です。

また、訪問させて頂いた中で特徴のある指導を実施している教室もあり大いに参考にになりました。このためこれ等を含め訪問の集大成として、当会各教場の基本的な指導のあり方をご提案出来ればと思っております。

一方、毎月行っております指導者講習会のあり方について見直しをすることになり、その中の一つとして当会の”宝“で全国の吟友



新年を迎えて

副会長 矢嶋 岳悦

の羨望の的となつて居る故松井岳洋先生の編み出した「韻読」の詠法を正しく継承し、普及させることが碩心会の責務と心得え、原点に立つて研鑽を積むことにいたしました。

”温故知新“の心で日々前進することを目標として運営して参りたいと思っておりますので、会員皆様の一層のご支援ご協力を賜りますようお願いして年頭のご挨拶といたします。

明けましておめでとございます。会員の皆様、ご家族共々お元気で佳き日をお迎えのことと存じます。

昨年は神奈川県本部50周年大会に会員皆様にも大変お骨折りを頂きありがとうございました。本年も昨年同様、忙しい年になることと思っております。よろしくご協力の程お願い致します。

前本部長のスローガン「和をもって貴しと



新年を迎えて思う

副会長 松井 岳篁

なす」が心に浮かびました。お互いに相手思いやり、人格の向上と碩心会発展のため吟道に精進しよりよい会にして参りましょう。

非力ではございますが、今年も懸命に勤めさせて頂きます。

あけましておめでとございます。

二〇〇五年の新春を会員の皆様ご家族と共に迎えられたこととお慶び申し上げます。

本年も総本部、県本部、神奈川地区、そして碩心会の年間の事業予定が発表されました。例年と同様忙しい日が続きそうですが皆様のご協力を頂き頑張りたいと思っております。

新年に当り私の所信を以下に述べます。

詩吟は楽しみながら続けるのがよい、苦勞と考えたら長く続かないと思います。

また、歴史ある我が碩心会がいかに素晴らしいか、全国を廻って再認識して頂きます。それは会員皆様の吟調であり、岳風会全国区で充分に通用する格調をもっています。

これは歴代に亘り碩心会を指導された大先輩諸氏のお陰と感謝しなければなりません。

どうか会員の皆様ご自分の吟調節調に自信を持って会の発展に力を尽くしてほしいと希

望します。ご一緒に今年一年を良い年にしようではありませんか。

新年に当って

副会長 内山 岳 青



明けましておめでとうございます。

昨年は台風多発や新潟県中越地震、暮にはスマトラ沖大地震と大津波が相次ぎ起こり文字通り『災』の年になりました。被災地の皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。

傾心会におきましては幸い通常通りの活動を行うことができ誠に有り難い限りでした。また昨年実施した各行事は、新しい試みも含め何れも内容の充実したもので、皆様の熱意とご協力の賜物と感謝申し上げます。さて、新しい年が始まりました。

新年に当っては誰もが今年はどうなる年になるかと考えますが、是非この一年の計の中に「詩吟に対する思い、即ち今年はどうなる気持ちで、何を目標に詩吟に取り組もうか」の一項目を入れて頂きたいと思えます。例えば今年は何度「声」を重点に、又は「節」を課題として練習しようとか、或はもっと具体的な目標として「五言の落し」を完全にマスターしたいとか、更には味わいのある「余韻」を研究課題にするとか、です。

目標を立て努力することにより、今まで出来なかったことができるようになり、或は上達したと思えることは何よりの楽しみであり趣味を長く続けていく秘訣だと思います。本年も各人の吟技上達と組織の力を結集して、傾心会の活動をより充実したものにさせるため全員で頑張りたいと思います。どうぞ本年も宜しくお願い申し上げます。

総伝位をいただいて

真澄 森 岳 靚

この度上位雅号の総伝位を受証することになり連絡を頂いた時は私自身驚きました。会長始め先輩の先生方に感謝申し上げます。伝統ある傾心会とは露知らず入会してから

26年余り、消極的な私は村田岳瀨先生に引張られて今日まで継続することが出来ました。さぞ重かったことと思えます。今後は県の総伝会もあり行事も増えますが

辛い健康に恵まれていますので、初心にかえり自己研鑽に務め、傾心会発展の為にお手伝い出来れば幸いです。

これからもよろしく願います。

逗子大船地区温習会に参加して

吉原 益 泉

11月28日の休日、葉山町福祉文化会館に於

いて傾心会逗子大船地区吟道温習会が盛大に行われた。初冬とは思えない穏やかな暖かい一日だった。

役員の方々により早くから設営された会場は静かな中にも、日頃の成果を発表すべく参加した会員の熱気と緊張感が溢れていた。

先ず開会の辞、「傾心会の詩」の大合吟により始まった。

今回はプログラム編成に新しい試みが採用された。慣例の初級者から高段者への出演順を午前と午後に分かれた。これにより同じ段位の吟詠を自席でゆつくり聴くことが出来勉強になった。また、私は午後の部になり出演までの長時間充分緊張感を味わった。

舞台は教室とは違い立ち居振る舞い、度胸、姿勢等を学ぶ唯一の教場でありこれもまた大いに緊張感を伴うものである。

当日の協賛吟や役員先生方の朗々とした吟詠は素晴らしく、うつとりと拝聴し新たな興奮を覚えた。それに少しでも近づけるような努力を改めて誓った一日であった。



賑やかに華やかに初吟会

平成17年1月10日(成人の日)鎌倉・わかみやに於いて
 碩心会初吟会が参加者155名により盛大に開催されました。
 定刻の10時矢嶋副会長の開会宣言と加藤会長の年頭挨拶に
 続き恒例の「碩心会の詩」の大合吟で開幕しました。
 舞台上に続々顔見せ登場する各支部の合吟は、みな新年を寿
 ぎ、指導者・来賓・役員吟詠と進む頃は新春の明るさが漂い始
 め締めやかな華麗な祝舞は正月気分も手伝い大喝采を浴びまし
 た。
 お神酒付きの賑やかな昼食の後、会員待望の懇親会が華や
 かに始まりました。各支部の出しものは今年も笑いあり踊り
 ありの楽しさいっぱい、フィナーレでは会場を巻き込んだ
 松健サンバで最高に盛り上がり大きな踊りの輪ができました。



トップで挨拶をする担当支部(真澄)の美女群団



今流行りの「松健サンバ」が登場、衣装に注目!



昔の面影今いすこの「秋田おぼこ」の可愛らしさ。



フィナーレは全員参加の「せきしんサンバ」で賑やかに輪になって会発展を祈念したステップ。



フラの美女群に来賓も役員もふらふらと合流。



仲むつまじい会長夫妻の安来節に喝采。

わたしの 雅号の由来

滝の坂 鈴木 岳虎(義男)

昭和50年に今は亡き佐久間溪岳先生が教室を開かれたので、行谷岳成さんと入門しましたが、既に先輩が4名ほどおられました。厳しい内にも楽しく民謡、都々逸といろいろ習い楽しかったことが想い出されます。

一年後には初段の審査を受け、連日稽古を重ね二段、初伝と進み雅号を頂くことになりました。私は寅年生まれで、小学校の頃先生から聞いた、親虎は子供達を谷底に突き落とし、這い上がってきた子供だけを育てること、を思い出して、強い虎にあやかろうと「虎泉」と付けた訳です。

まだいろいろ教えて頂く中、先生が逝去されて、後を佐久間、上村両先生にご指導を受け、今年晴れて総伝の認許を頂きました。まだまだ未熟ですが、この強い雅号に恥じないよう努力して参ります。

滝の坂 知久 萌 岳(美代)

「萌」は芽生えです。

私は春が大好きです。寒い冬、そして萌え出づる芽、新緑を迎えることのできる生のよ

ろこびと、自然を満喫し幸福感に浸ります。

今年74才になりましたが、萌え出づる春のように、元気に吟道に励みたいと思います。

「萌」の字が詠みこまれた和歌を一首

石はしる 垂水の上の さわらびの

萌え出づる春に なりにけるかも

(万葉集 志賀皇子)

悠吟 人見 海 岳(久雄)

詩吟を始めたのは昭和47年、当時私は海上自衛隊の護衛艦に勤務しておりました。

入隊以来6艘目に乗り組んだ護衛艦で詩吟に出会いました。そこには詩吟の同好会があり数名が練習に励んでおりました。誘われるまま入会したのが、その桜風会でした。練習は、入港時は陸上施設で、洋上では荒天時を除き後部甲板が教場でした。

波静かな瀬戸の海を航行しながらの練習や赤道を通過する度に行う炎天下でのお祭り行事に大声で吟じたものです。

雅号は奥伝になって「海風」皆伝では「海岳」としました。それは若い血潮を燃やしたのが海であり、詩吟を私に結びつけたのも海であったからです。

滝の坂 乙津 岳(喜平)

新しい雅号を名乗るたびに「乙」と良い字が

他に！と迷い、結局生まれついでの一文字「喜」を付けることで我慢していた次第です。

でも岳になると意識改革したくいろいろ考えましたが、折角親から貰った名を変える度量もなく、ふと思いついたのが子供のころ父親が私の所持品に記名した草体の「岳」の字でした。

ラッキーナンバーの七が三つも俵のようにドッシと並んで安定感もあり大変気に入りました。それから今日まで事あるごとに使っておりま

す。喜寿の祝いも七十七と読み替えられるそうで、長い人生幸せと「岳」をもって生きられようように！

東伏見 大野 祥 山(二郎)

雅号を持つことにより、これから本格的な第一歩が始まると云う快い緊張感を覚えたことを感慨深く思い出す。

さて、と構えては見たがびったりしたものが仲々浮かばないところへ偶々孫を連れて来宅していた娘の名前の「祥」を採って「祥泉」「祥山」「祥風」と唱えてみると納まりが良い。「神が与えるさいわい・良いきざし」の意の「祥」は何とも目出度いではないか。しかも親子揃って。

これで決まりとなった次第である。

「わがふるな図書館ホール」に参加して

真澄 星 野 輝 岳

暖かい晴天に恵まれた12月5日、逗子市文化協会主催の標記公演が行われました。

長年に亘って私達に親しまれた図書館ホールも老朽化し、愈々最後の公演となりました。文化協会加盟の芸能部門12団体総出で持ち時間は僅か10分、第1部はホールの成り立ちを寸劇で発表され、第2部は古典芸能で私達詩吟詩舞連盟の30名大合吟に合わせて、富士山の絵と書の描き出しが満場を揺るがし、詩舞「逗子八景」「静御前」が華を添えました。

休憩を挟んで、過去ホールに出演した芸人のスライド紹介、若人のモダンダンスとミュージカルと続き最後に大合唱「美しき碧きドナウ」が披露され、会場全員でありがとう図書館ホールと感謝を込めて「いつの日も」を合唱して幕を閉じました。

30余年間、春秋の文化祭・温習会・審査会と私達碩心会会員にとって想い出は尽きません。名残りを惜しみながら最後の階段を降りて帰りました。

「さよなら図書館ホールありがとう
新しいホールでお会いしましょう」

教場訪問

堀内支部E班

教場のなりたち 昭和52年12名の会員により

故白井岳寿先生宅で発足した。平成6年岳寿先生ご逝去を契機に、教場を堀内会館に移し、指導者も現在の白井岳麗先生お一人になられた。現在の会員は8名で、毎週木曜日に稽古に励んでいる。本教場の特徴は詩舞との係わり合いで、発足時には小・中学生が7名在籍し、詩吟の他に子供たちは詩舞も合わせて稽古をつけて貰っていた。内2人の姉妹はアメリカの国籍を持つアメリカンスクールの生徒で、毎週稽古日の日曜日に東京から通っていた。現在彼女たちは結婚し、米国で教鞭をとり、日本文化の詩吟・詩舞を生徒たちに披露する事もあるそうだ。



堀内E教場の皆さん

◎は担当指導者

有馬昌山 飛田智岳

根岸啓岳

(加藤会長)

西岡清岳

◎白井岳麗

乗松 力

塚越まさ子

この日のようす 12月2日午後1時、堀内会館に白井岳麗先生他7名の会員が集まり稽古が始まった。いつもしているように「吟道精神」を全員で合吟してから二段、七段の審査課題吟を独吟、合吟の形式で繰り返し練習が行われた。

二段受審の会員さんは脳梗塞を患い、後遺症

で一時期軽度の言語障害があったが、リハビリのつもりで始めた合唱・詩吟のおかげで障害も大分克服されて、審査会で二段を受審出来るまでになった。詩吟の効能の一つとして、健康増進が定番のように言われるが、この様に具体的にその効果を目の当りにして、効能を確信した次第である。一通りの練習を修了してから加藤会長を囲んだ雑談に花が咲き、次の点が印象的だった。

①高段者の講習及び受審の会場に昇降設備が無いために参加し難い。
②総本部会員が現在8万人で、年平均3千人の脱会者がいる現実に対する危機感が感じられない。詩吟は精神文化だなんて硬い事言わないで、積極的に詩舞、歌謡曲等を取り込み、新規会員獲得の方策を考えるべきだ。

俳句

松和 岩崎 岳恵

湧き上がる歓声海へ大初日

初晴れや未来に賭けし観覧車

初売りや連られて買ひぬ福袋

滝の坂 佐久間 岳爽

初漁のともづなを解く富士を前

清冽の水音に躓き若菜摘み

槌音の山に訝す寒日和

堀内E 西岡 清岳

初富士の凍と聳ゆる冬の海

寒椿音たて落ちる紅絨緞

なすな粥母を偲びて寒き朝

行事予定

- 春季審査会
日 時・3月19日(土) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館―大会議室
- 温習会
日 時・6月19日(日) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館
- 総 会
日 時・6月25日(土)
場 所・未定
- 夏季吟道講座
日 時・7月24日(日) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館―大会議室
- 秋季審査会
日 時・9月18日(日) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館―大会議室
- 皆伝会
日 時・10月16日(日) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館―大会議室
- 地区温習会
日 時・11月20日(日) 9時受付
場 所・葉山町福祉文化会館
- 寒河江吟友会碩心会姉妹会提携20周年
日程・会場・未定

会員移動

- 入会 (12月1日付け)
44塚越まさ子 葉山町堀内975
(堀内E) ☎046・875・8132
紹介者 白井 岳麗
- 45藤井 宣夫 茅ヶ崎市浜竹4・5・63
(松 和) ☎0467・83・1212
紹介者 宇都宮岳徳
- 46加藤 愛子 茅ヶ崎市東海岸北2・1・52
(松 和) ☎0467・58・2886
紹介者 宇都宮岳徳
- 47飯淵 武 横浜市戸塚区原宿4・51・31
(逗子A) ☎045・852・8281
紹介者 山下 信
- 入会 (1月1日付け)
48梅澤 彰 横須賀市久里浜5・16・2
(滝の坂) ☎046・835・2770
紹介者 行谷 隆風
- 退会 (12月1日付け)
143横山旃岳(晴 誉) 268越水悦風(幸和B)
305小谷田瑞山(東伏見) 365大場嘉泉(堀内D)
- 退会 (1月1日付け)
404簡野高道(滝の坂)

著書の発売

「中華人民共和国を訪問して」

著者・熊澤岳昌 価格・五千五百円

申込先

〒255・0005
中郡大磯町西小磯161
☎0463・61・2458
熊澤 岳昌

元日の奉納吟

大晦日の嵐が一転うそのように晴れ渡った元日、素晴らしい新春の富士を望む葉山森戸神社裏の海岸で奉納大会吟がありました。

これは堀内支部(大西雄岳支部長)の有志による正月行事で、集まった皆さんは清しい気分で今年の吟道精進を誓い合いました。



編集後記

昨年の「災」を転じて「福」となす今年こそ良い年であれ。(磯村)

岳も泉も新入りも「碩心」誌充実のためどんどん寄稿をお願いします。(島津)

じっくり読めば味があり、ちらっと見れば楽しい編集を目指します。(山本)

次号が楽しみに待たれる広報誌になるよう部員一同頑張ります。(角田)

17年	1月現在	会員数
葉山地区		163名
逗子・大船地区		120名
合 計		283名